

「広い視野を持つとう」



法学部長

はしもと もとひろ
橋本 基弘

新入生の皆さん、ご入学おめでとう。本意であったかどうかはともかく、数多い大学の中から中央大学を選んできたことにまず感謝したい。

今、日本社会は激動の中にある。国家財政の破綻は対岸の火事ではあり得ない。経済のグローバル化は労働や日常生活のレベルにまで深い影を落としている。

教育もまた例外ではない。国境を越えた大競争が始まろうとしている。およそ「知」というものが人間にとって普遍的な意味をもつなら、大学の場所や使用言語は、本来二次的な要素しかもたないはずである。学びたい学問を学べる場所で学ぶというのが大学の起源であった。12世紀に大学制度の輪郭ができたのには、国境を越えた学びの要求があった。つまり国境を易々と越えて集まる学生の存在があった。

大学＝universitaとは、本来人の

集まりを意味するラテン語に由来する。ヨーロッパ各地から、聞きたい講義や知りたい知識、学びたい先生を求めて学生が集まってきた。

翻って本学を見てみよう。1885年に、日本を近代化するためにはイギリス法を広める必要があると考えた18人の若い法律家が集まった。そこに全国から法を学びたいと志を立てた多くの若者が参集する。出身地や使用言語(?)も異なる若者が中央大学の礎を築いたのである。

学問の自由は移動の自由によって支えられてきたのである。人の移動が自由であることが学問をする大前提である。グローバル化した社会ではローカルな知以上に普遍的な知が求められる。今この時、香港や上海でも、シンガポールやシドニーでも、ボストンやオックスフォードでも諸君と同じように瞳を輝かせて学ぶ若者がいることを忘れないでほしい。

広い視野を持つとう。歴史を変えていくのは諸君なのだから。

入学おめでとうございます



経済学部長

せきの みつお
関野 満夫

経済学部新入生のみなさん、入学おめでとうございます。

高校三年間の生活と受験勉強を経て、これから新たな大学生活四年間が始まります。親元を離れて一人暮らしを始める人もいるでしょう。いろいろな期待と不安を持って、この二〇一二年四月を迎えていることと思います。

さて今日では、世界的不況の継続、EU共通通貨ユーロの不安、ギリシャ・イタリアの財政危機だけでなく、日本国内でも東日本大震災から復興問題、原発および電力問題、政府の財政赤字と年金・増税問題など、様々な不安定要素や楽しくないニュースが目につきます。

これらは確かに頭の痛い問題ですが、同時にこれらはみな経済学と密接に関わる問題でもあります。みな

さんがこれから勉強する経済学は、そうした課題に応える現実的学問であり、その意味での楽しさおもしろさもあるのです。

中央大学経済学部では経済学および総合教養について体系的な授業カリキュラムを整えています。また、中央大学経済学部の教員はすべて、経済学ないし社会科学や外国語等の専門研究者であり、授業やゼミ活動を通じて学生のみなさんと学問上の交流を楽しみにしています。言うまでもなく、大学での勉強は、自分なりの問題関心を持って主体的・積極的に取り組むことによって、さらに楽しくかつ有意義なものになります。

この緑豊かな多摩キャンパスにおいて、これからの4年間を是非有意義に過ごしてください。

ようこそ、新・中大生！



河合 久
かわい ひさし
商学部長

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございませう。商学部教職員は、「商学」という学問を共に探究できる多くの仲間をお迎えすることができたことを喜ばしく、また誇らしく思います。

「商学」という学問領域の直接的な対象は企業活動に代表されるビジネス（組織の営み）にほかなりません。企業はそれ自体で単独に存在しているのではなく、経済社会や環境に影響を与え、またそこから影響を受けるという相互関係の中で成立しています。しかも、ビジネスは私たちの生活を内包し、人々の日常的活動の外延上に存在していることとなります。それゆえ「商学」領域を学ぶには企業単体の行動に目を向けるだけでは不十分であり、周辺の経済学領域や外国語、人文・社会学などに視野を広めることが、国際競争力の向上を目指す日本企業、ひいては世界の企業動向を学ぶ皆さんに求められています。

商学部は、そのような観点から、経営・会計・商業貿易・金融といった専攻別の学科を基礎としながら、皆さんの関心領域に沿った比較的柔軟な科目選択を可能とするカリキュラムを編成しています。しかし、学年が進むにつれて多くの

学生はより専門的な分野に研究対象を絞るのが一般的です。その際、研究対象の選択を適切に判断するためには、たんなる関心だけではなく、自分が納得できる合理的な根拠をもつことが不可欠となるでしょう。大学での学問では対象となる事象や実態を科学的に分析する力を身につけることが重要となります。そのような視点から能動的に講義やゼミに参加し、欲しいと思います。

人の存在は企業の存在と似ています。人は社会との関係で存在しています。人はおおよそ単独で生きられないでしょう。他人から影響を受け他人に影響を与えます。大学生活の4年間は、授業やゼミだけでなく、課外活動（スポーツ・文化活動）においても常に他者との交流とコミュニケーションを伴います。これまで以上に主体性と協調性が求められることになるでしょう。大学生活でなければ得られない友人を作り、友人から異なる価値観を学び、新たな自己の発見と創造に時間を費やすこともできるはずですよ。いま大学生活にいくつも自分の不安を抱えています。勇気をもって自分の不安を抱えて、半歩先に飛び出してみてください。そして皆さんの力によって元気で健全な商学部を築いて頂きたいと思えます。商学部の各科目で学ぶことを日々の自己形成に応用してみたいかがでしょうか。

専門力と発信力



石井 洋一
いし い しょういち
理工学部長

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございませう。理工学部の新しい仲間として、皆さんを心から歓迎いたします。

理工学部に入學した皆さんの多くは、科学技術に夢を抱いて理工学の世界を目指してきたことと思います。そして、理工学の専門分野の深い知識を学び、技術者・科学者としての道を歩もうとしている人が多いことと思えます。では、理工学の専門力さえ身につければ、一人前の技術者・科学者になれるのでしょうか。

理工学は専門性の高い分野です。確かに専門力が重要であることは事実です。しかし、実社会で理工学の技術者、科学者として活躍するには、それだけでは不十分です。発想力やリーダーシップなど、強い「人間力」も不可欠であり、大学生活の中でそれらも養っていかねなければなりません。私は、特に皆さんには、自分の考えをまとめ、それを他の人たちに理解させるという意味での「情報発信力」を身に付けることに注意を払っ

ていただきたいと思っています。日本語、外国語を問わず、言葉を大切に、正しく情報を伝え、聴く人を納得させる力、それは理工学でも、いや理工学だからこそ、必要なのです。

理工学なのに語学力があるのか、と感じる人もいるかもしれません。しかし、科学技術の世界は、未知なる真理を明らかにし、あるいは新しい技術を開発することを競う、競争の世界です。明らかにした成果は、世界に向けて発信して、初めて成果として認められます。発信されない成果は無いのと同じなのです。また、科学技術は大きな影響力を持つがゆえに、科学技術の力を使う者は、その力の影響や限界を社会に対して説明する責任を負っています。自分の成果を発信し、また説明責任を果たすこと無しには、理工学は成り立ちません。これからの理工学部での生活の中で、専門力だけに目を向けるのではなく、発信力を身につけることも努力してください。語学の学習はもちろんです。良い文章をたくさん読み、また言葉を大切に使う習慣をつけてください。そうすることが、たくましい専門力を身に付けることになるのですから。

知の伝統と個人の独創



文学部長

河西 良治
かさい りょうじ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

現代の世界はいたるところで混乱や苦難が発生しています。このような時代に大学に入学する皆さんには、きつと、この混乱する世の中を立て直す使命があるのではないかと思います。皆さん一人ひとりの使命にはそれぞれ違った役割分担があると思いますが、大学時代は、専門分野の研究と幅広く深い教養の修得を通してしっかりと自分の能力を鍛え上げてほしいと思います。その時の心構えとして参考にしてほしい言葉に、『論語』の「学びて思わざれば則ち罔し（くらし）、思ひて学ばざれば則ち殆し（あやうし）」があります。先生や書物から学ぶだけでなく自分で考えなければ本物の知識は身につかない、また、自分で考えるだけで先生や書物から学ばなければ独断ばかりで危険だ、という意味ですが、先人から学ぶことと自分で考えることの両方のバランスをとって学問をすることが大切であることを指摘した言葉です。いわば、知の伝統と個人の独創の総合を説いたものです。このような誠実な姿勢で、大学4年間本物の学問を身につけてほしいと願っています。

います。

皆さんに目指してほしい、もう少し具体的な人物像があります。それは、皆さんも最近耳にすることが多い言葉だと思いますが、いま世界が求めている「グローバル人材」という人物像であります。しかし、具体的な内容を知らない人も多いようです。政府関係の資料でその能力要素をみると、①語学力・コミュニケーション力、②主体性・客観性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感、③異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ、などがあげられています。このなかには、皆さんが大学時代に身につけることを目指すことのできる能力がいくつもあると思います。これらは、地球世界の一員として生きていく時代の皆さんに必要な基本的な能力であると思います。

大学時代は、自分と向き合い自分を知るための時間が持てる人生の大切な時期です。また、学問だけでなく、サークル活動なども含めて、多様な人たちや知識・事物に出会える時期でもあります。ぜひ、この時期に、皆さんがそれぞれ専攻する学問を通して研鑽を積むことを身につけて、人間や社会を読み解く高度な知恵を身につけて、世界の一員として役に立つ人材になる努力をしてほしいと願っています。素晴らしい大学時代になることを祈っております。私たち教職員も皆さんを応援します。

歓迎の言葉



総合政策
学部長

丹沢 安治
たんざわ やすはる

桜の花が咲く多摩キャンパスにようこそ。ここがこれからの4年間、皆さんの学業の研鑽と友人たちとの交友の場であり、生活の中心となる場です。これまでの受験やさまざまな高校での生活で培った能力をもつて、この多摩キャンパスで何ができるか、何を学び取ることができ、か改めて考え、新たな人生を切り開く出発点としてください。

それを知るためには次の3つのことを考える必要があります。第1に皆さんの周囲の社会、経済の環境がどのような様子で、そこで新たな人生を切り開くためには何が必要で、何をすべきなのでしょう。第2に、この社会経済の環境の中で皆さんがこれまで蓄えてきた学力、友人らとの交流によって得てきた人間としての能力で何ができるでしょうか？

して、第3に、足りないものやもつと鍛えなければならぬものがあるならば、それは何でしょうか？

日本という国・地域は、すでに多くの点で優れた成熟した社会を實現しています。しかし同時に少子高齢化、雇用の問題など多くの問題点も抱えています。また、先進国と新興国群との間で、世界のグローバル化、一体化によって、経済、社会、文化の領域で大規模な融合が始まり、いわゆるグローバル化が進行したということも皆さんを取り巻く環境の大きな特徴です。

皆さんがこのような社会・経済に存在する現実の問題を深く理解し、対処するための能力を身につけ、創造的な解決策をさぐる力が養われることを期待しています。